



様々なポジションをこなし、マルチな才能を発揮した小林亮(中央)だったが、大チャンスを外してしまった(撮影・岩田陽一)

JR東日本カップ 2003 第77回関東大学サッカーリーグ戦(後期) 1部リーグ 第八節

駒澤大学1-1日本大学

決定力不足…

圧倒的に攻めるも追加点奪えず

故障者続出…不安のなか後期開幕

「中田、(田中)信成が出られないので若干不安はあったけど、あいつらがいない時でも練習試合とか普通にやれてたんでいけるかなって思ったんですけど」(橋本)。故障者続出で、不安を抱えたまま迎えた後期開幕戦。対するは日大。前期開幕戦であたった相手であり、駒大が唯一勝てなかった相手だ。

うだるような残暑と強い風のおかげで試合。駒大は立ち上がりから攻めの姿勢を見せ、再三日大ゴールへ襲いかかる。

しかし、日大攻撃陣は一風があるなかで集中力が切れてしまった(鈴木)駒大ディフェンスの一瞬のスキを見逃さなかった。22分、ディフェンスラインが下がったところを日大・横山がフリーで持ち出すと、そのあとは簡単にやられてしまう。末本のふわりと浮かせたパスを唐松が頭で決め、日大に先制点を許す。

その後、両者一進一退の攻防で、もどかしい時間が続く。試合が動いたのは、前半残りわずか3分のときだった。橋本が倒され得たフリーキックのチャンス。キッカーは中後。ゴール左前から放った鋭いシュートはそのままゴールに吸い込まれた。

後半に入り、早く追加点を奪いたい駒大は後半6分、関に代えて根本を投入。夏の大臣杯での活躍も記憶に新しい根本をトップ下に、小林亮を右サイドに置き、新たな攻めの形に出る。だが駒大は根本の前線への飛び出しや、小林的クロスボールなど怒涛の攻撃を見せるもフィニッシュまで持つていくことができない。さらに駒大は赤嶺に代えて原を投入。ますます駒大の攻めは勢いを増し、待望の追加点はいつうまれてもおかしくない状況でさえあった。そんななか、追加点の最大チャ